

## 2. 首都直下地震等の被害想定

わが地区の災害時の危険性を「鳥の目」で把握するために、最新の被害想定等のデータや地図を学習し、災害時の被害をイメージしましょう。

### (1) 東京都の被害想定

#### ◎東京湾北部地震による東京都の被害想定 (平成 24 年 4 月 18 日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、  
冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

人的被害	原因別	死者	約 9,700	人
		揺れ	約 5,600	人
		火災	約 4,100	人
	原因別	負傷者	約 147,600	人
		(うち重傷者)	(約 21,900)	人
物的被害	原因別	揺れ	約 129,900	人
		火災	約 17,700	人
		建物被害	約 304,300	棟
	原因別	揺れ	約 116,200	棟
		火災	約 188,100	棟
避難者の発生(24:1日後)		約 339 万	人	
帰宅困難者		約 517 万	人	

#### ◎東京湾北部地震による板橋区の被害想定 (平成 24 年 4 月 18 日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、  
冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

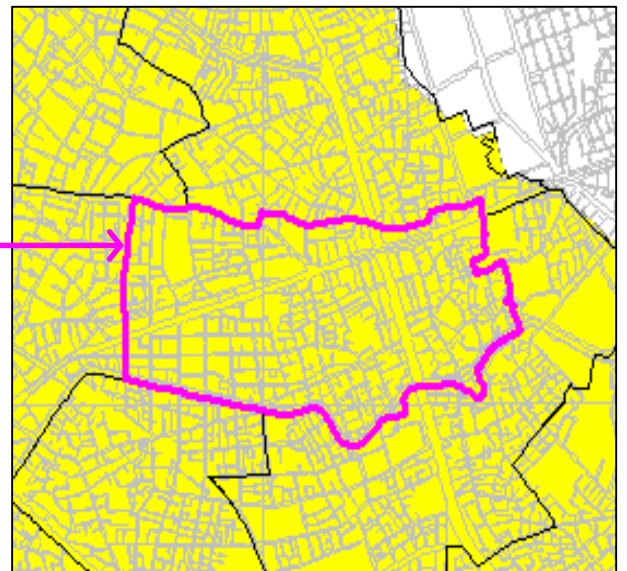
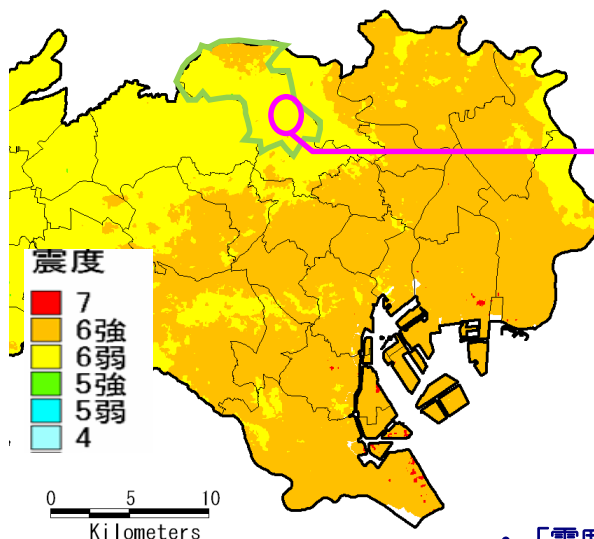
- 死者：81 人(0.02%)
- 負傷者：2,657 人(0.5%)
- 建物全壊：1,656 棟(1.8%)
- 建物焼失：747 棟(0.8%)
- 避難者：71,832 人(13.4%)
- 帰宅困難者：104,123 人(22.81%)

(注) 比率は、死者・負傷者・避難は夜間人口比で、  
帰宅困難者は昼間人口比で算出。

(注) 火災は冬の 18 時・風速 8m/秒の想定

出典：H24 東京都防災会議 首都直下地震等による東京  
の被害想定報告書

### ①想定震度分布

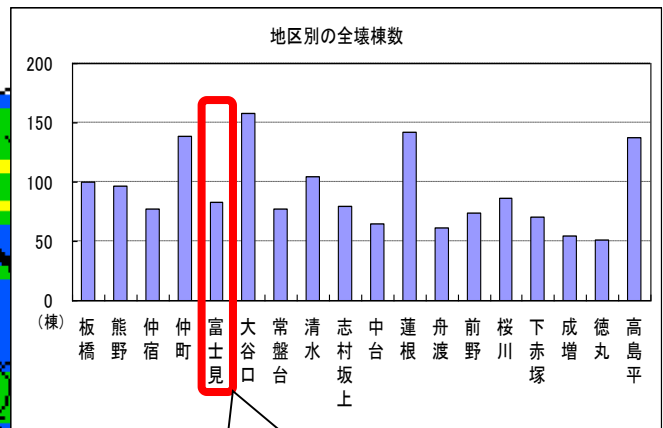
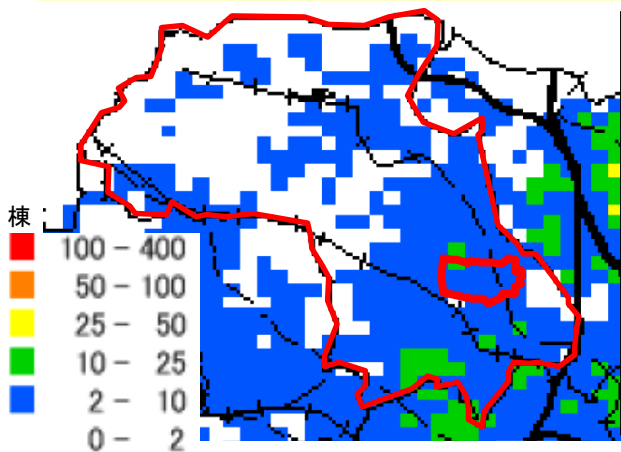


#### ・「震度6弱」とは？

- ・東京湾北部地震 (M7.3) の想定。
- ・板橋区は、ほとんどの範囲で震度 6 弱、一部、北部に震度 6 強が想定されている。
- ・富士見地区は、震度 6 弱の想定となっている。

人の体感	立っていることが困難になる。
屋内の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

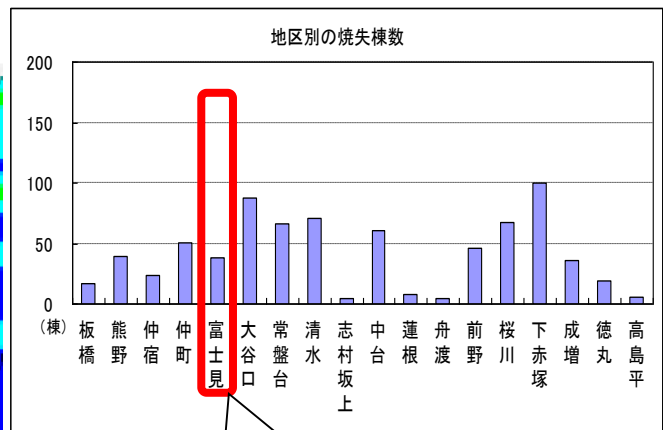
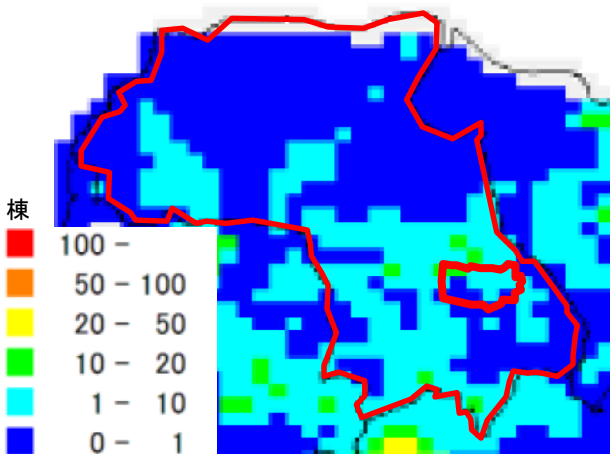
## ②木造建物全壊棟数の分布（ゆれ）



・木造建物全壊棟数は、区内でほぼ平均の値。

83 棟（板橋区内 9 位）

## ③建物焼失棟数の分布（火災）（冬 18 時・風速 8m/秒）



・建物焼失棟数は、区内でほぼ平均の値。

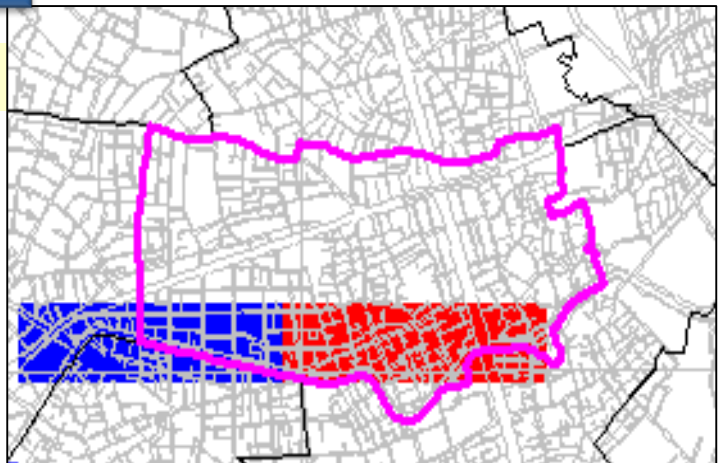
38 棟（板橋区内 10 位）

## (2) 東京都の液状化予測

### 液状化危険度の分布

・石神井川流域で、液状化危険の高い地域が分布している。

液状化危険度  
■ 可能性高い  
■ 可能性低い  
 可能性なし



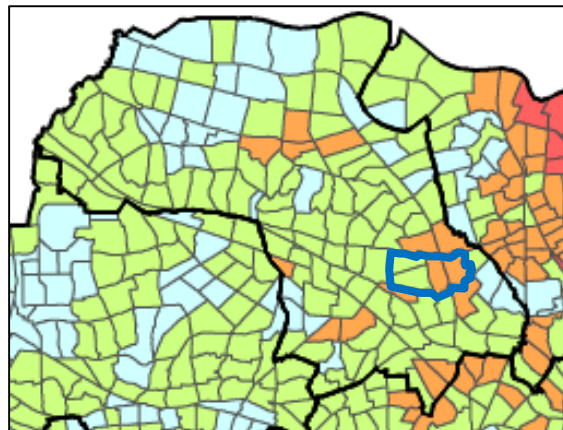
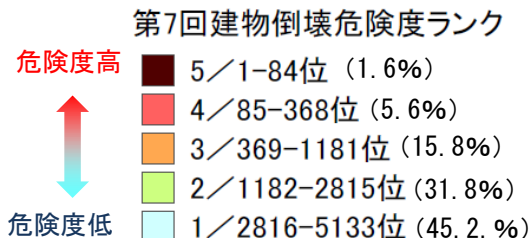
### (3) 地震に関する地域危険度

出典:H25 東京都 地震に関する地域危険度測定調査報告書

町丁目別の地域危険度測定調査を実施し、5,133 丁目を相対的に5段階評価したもの

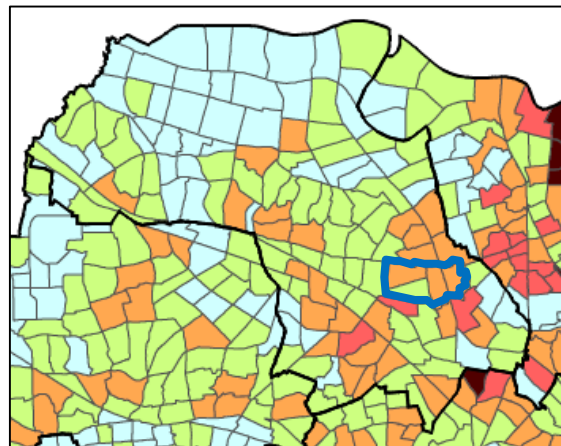
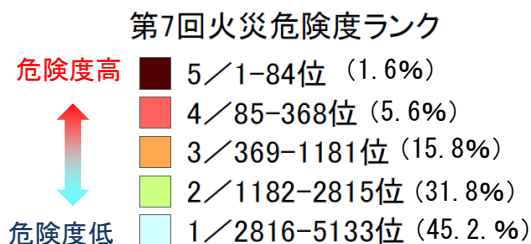
#### ①建物倒壊危険度

- 建物倒壊危険度は、本町、大和町が「3」と高い。



#### ②火災危険度

- 火災危険度は、双葉町を除いて「3」と高い。



### (4) 板橋区洪水ハザードマップ

(H17. 7 作成)

#### 新河岸川・石神井川版

- 平成 12 年 9 月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定。
- 石神井川沿いで浸水想定。

大規模浸水時避難所	●
小規模浸水時避難所	◆
避難所とならない学校	●
区役所	◎
河川	—
水の深さ 2.0m以上	■
水の深さ 1.0m～2.0m	■
水の深さ 0.5m～1.0m	■
水の深さ 0.2m～0.5m	■

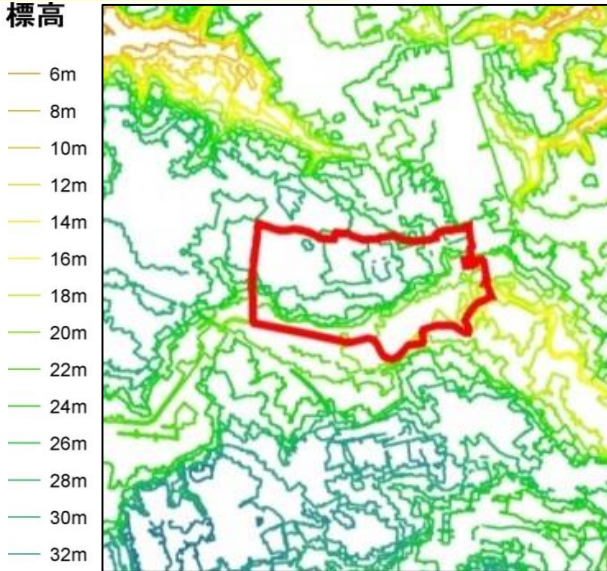




### 3. 富士見地区の地域特性

地域特性（地盤、土地利用、建物属性、人口特性データ等）から、わが地区の災害時の被害をイメージしましょう。

#### ① 地形



- 富士見地区の標高は、18m～29m。地区全体は高台であるが、地区内で高低差が存在する。

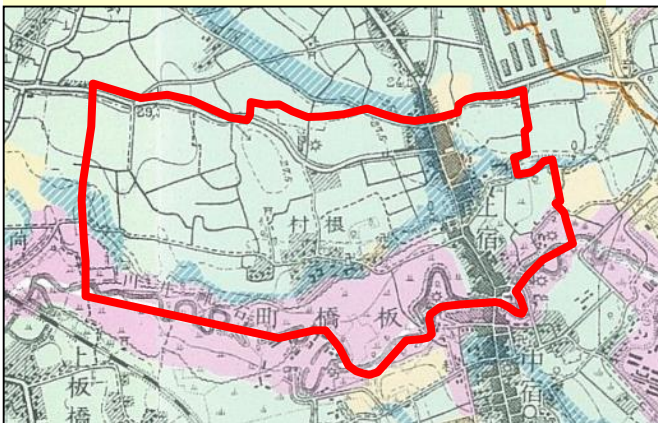
#### ② 土地条件図



- 石神井川に沿って谷底低地が見られ、盛土・埋立地とされる。
- 段丘と低地の間に斜面等が見られる。

更新世段丘	
盛土地・埋立地	
凹地・浅い谷	
切土地	
山地斜面等	

#### ③ 旧版地図・地盤の揺れやすさ評価



- 更新世段丘の揺れやすさが「中」であるが、石神井川の低地では、揺れやすさが「大」である。

揺れやすさ評価	
中	
やや大	
大	
評価対象外	
山地斜面等	

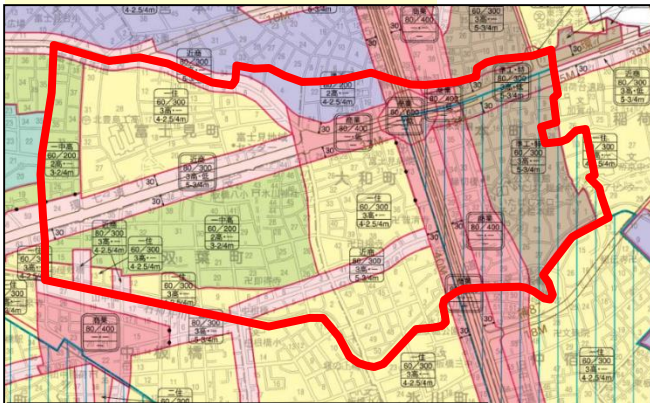
#### ④ 土地利用-都市基盤



- 幹線道路、鉄道の利便性はやや良い（中山道、環状7号線、都営三田線）。
- 道路、鉄道で地区が分断されている。



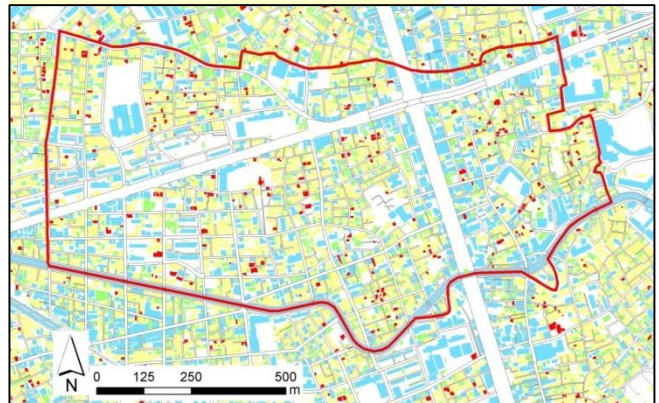
### ⑤土地利用-用途地域



一中高	第一種中高層住居専用地域
一住	第一種住居地域
近商	近隣商業地域
商業	商業地域
準工・特	準工業地域(第二種特別工業地区)
準工	準工業地域

- 幹線道路沿いで、商業系の用途、その他は住居系。
- 一部で、工業系が分布している。

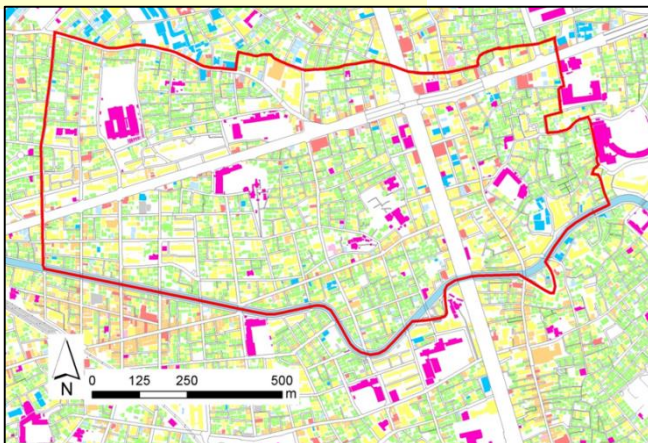
### ⑥建物属性-建物構造



- 耐火構造 ■ 防火造
- 準耐火造 ■ 木造

- 防火木造、木造が約 60%を占める。
- 幹線道路沿いは、不燃化が進んでいるが、地区内では、木造・防火造の建物が広がっている。

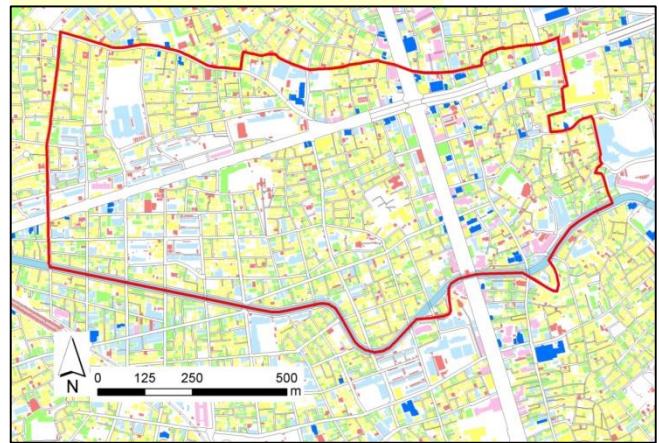
### ⑦建物属性-建物用途



- 公共・公益施設 ■ 独立住宅 ■ 専用工場
- 商業・業務建物 ■ 集合住宅 ■ 住居併用工場
- 住商併用建物 ■ 倉庫運輸関係施設

- 建築面積割合、建物棟数割合ともに、独立住宅が最も多く、次いで集合住宅が多い。

### ⑧建物属性-建物階数

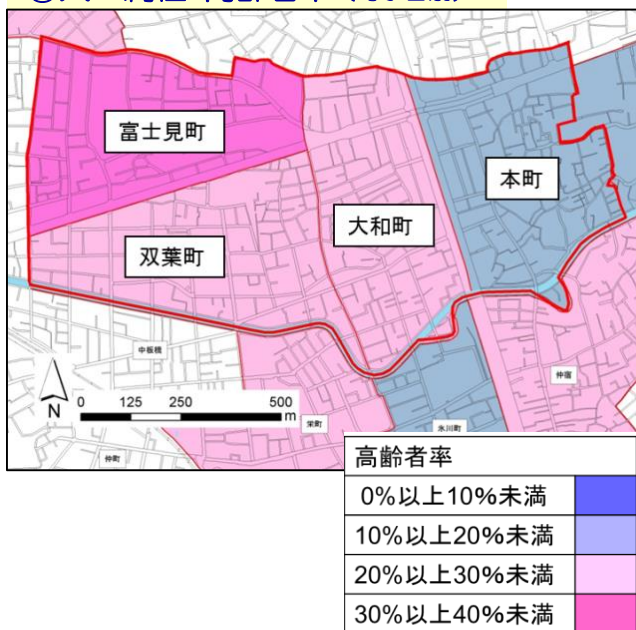


- 1階 ■ 4階～6階
- 2階 ■ 7階～9階
- 3階 ■ 10階～15階

- 棟数割合では、1、2階建ての建物が、約7割を占める。
- 広幅員道路沿いに高層建物が建つ。

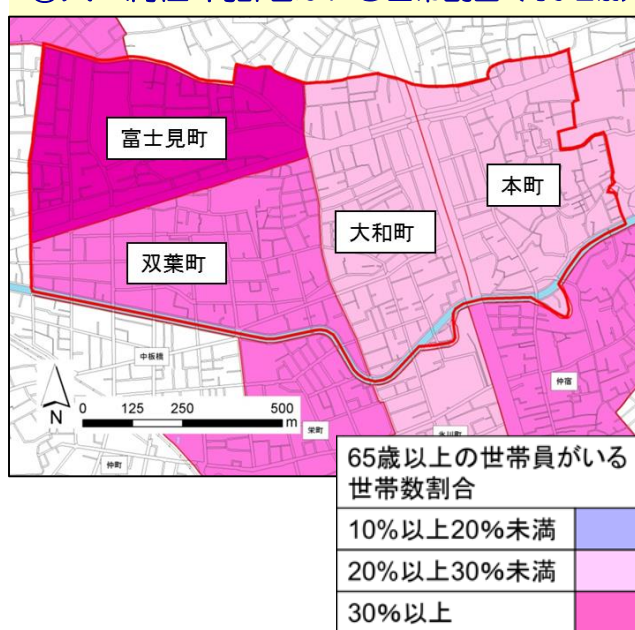


### ⑨人口属性-高齢者率 (町丁目別)



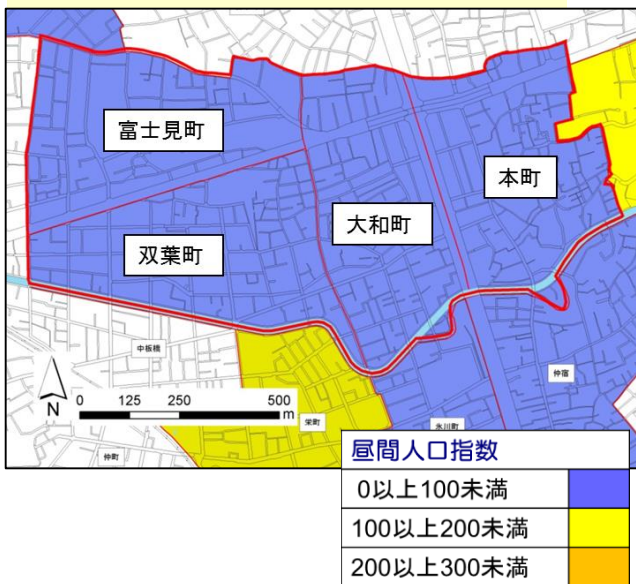
- 高齢者率（65歳以上）は、富士見町は区平均（21%）より高く、その他の地域は、区平均とほぼ同じである。

### ⑩人口属性-高齢者がいる世帯割合 (町丁目別)



- 65歳以上を含む世帯の割合は、富士見町は、区平均（29%）より高く、その他の地域は、区平均とほぼ同じである。

### ⑪人口属性-昼間人口指数 (町丁目別)



- 町丁目ごとの昼間人口指数（夜間人口を100とした場合の昼間人口）は、100未満で、昼間の人口が少ない。

### 地域の特徴からみた被害想定

- 地区が幹線道路によって分断されており、災害時の著しい渋滞により、地区住民の安全な避難が妨げられる可能性がある。
- 旧中山道周辺では、道路が狭く木造建物が密集しており、火災による延焼の危険性がある。
- 石神井川付近の低地では、液状化する可能性が高く、地盤や地下埋設物（ライフライン）等の被害が想定される。また、豪雨時には水害の心配もある。
- 集合住宅が多く立地し、エレベーター停止等に対する備えが求められる。
- 高齢化が進んでいる地域があり、災害時要援護者の見守り体制が望まれる。

出典一覧：①ミッドマップ東京 1/2500 地形図、②③首都大地震ゆれやすさマップ 2013 年旬報社、④板橋区都市計画マスタープラン、⑤H25.4 板橋区用途地域図、⑥～⑧H23 東京都土地利用現況調査、⑨～⑪H22 板橋区国勢調査